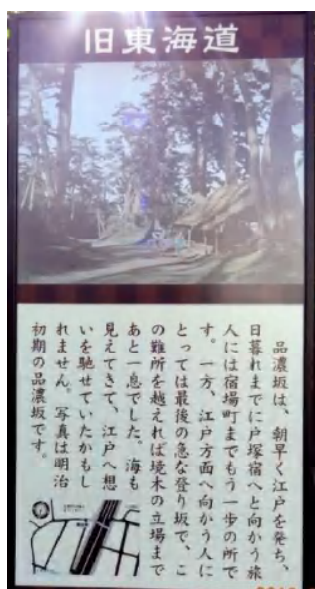


ぶらり散歩東海道・権太坂から戸塚まで 佐菜慎二 2016、2、28

昨年は旧東海道を保土ヶ谷から権太坂までぶらり散歩しましたが、今回は権太坂の頂上の境木地藏尊からその先の戸塚まで歩いてみます。目指すのは歌川広重の描いた有名な戸塚大橋です。



境木地藏尊から信濃一里塚を過ぎて、右手に東戸塚のニュータウンの高層住宅を見ながら、梨や梅林の中の道を進むと、天気の良い日には遠く富士山が見えます。右手に品濃坂の下り道が出てきます。環状二号線を陸橋で跨いで、住宅地の中の道を進むと川上川に出会います。小さな川ですが、桜並木あって桜の季節には綺麗な花を咲かせてくれます。



川上川を渡る海道橋を渡って国道一号線に出で、暫く交通量の激しい国道を歩くこととなります。赤関橋を過ぎて左手の住宅街を登ったところに「瑞穂神社」があります。この神社は2000年の伝承を持つ「山陰神道」の神社です。当地は川上村柏尾と称し、鎌倉時代に奈良県吉野郡檜尾からの移住者によって拓かれた土地だそうです。神社は小高い山の上にあります、深い森に囲まれて、国道の喧騒から離れて静謐な佇まいに包まれています。



国道に戻ってポーラ化粧品前のバス停裏の梅林の上の森に「王子神社」があります。



祭神は後醍醐天皇の皇子の大塔宮護良親王です。護良親王は仏門に入り天台座主となりますが、還俗し征夷大將軍となり後醍醐天皇の建武の中興(1334年)に尽くしましたが、皇位篡奪の嫌疑を得て鎌倉に幽閉され、足利尊氏の弟足利直義の命により殺されました。この

王子神社の近くには親王の御首を洗い清めた井戸があり、その首を王子神社の地下に葬ったと伝えられています。元は王子神社ではなく「皇子神社」と呼ばれていたのかも知れません。神社はなお明治維新後親王の霊を弔うため鎌倉に鎌倉宮(大塔宮)が作られました。



国道の右手に江戸時代に大変賑わった大山詣の入り口に、「大山道道標」と御堂があります。御堂には不動明王像が祀られ、「従是大山道」の石柱や庚申塚などがあります。

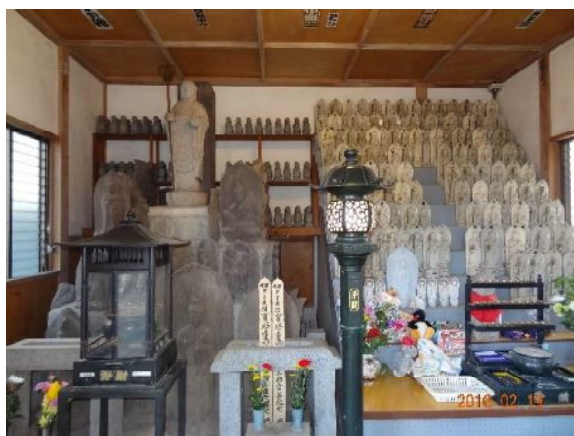
国道の左手には「益田家の大モチノキ」を仰ぎ見ることができます。高さ18メートルと19メートル、樹齢300年の雌雄2本の大木で、神奈川県指定天然記念物になっています。国道をひっきりなしに通る車の排気ガスにも負けず、樹勢旺盛で素晴らしい樹冠を保っています。樹皮から鳥もち作ることがモチノキの名の由来です。



モチノキの先がバイパスとの分かれ道の不動坂の交差点です。旧東海道は国道から離れて左の道に入ります。赤いレンガ作りの建物が見えてきます。大正7年(1918年)に建造された「鎌倉ハム」の工場です。明治10年頃英国人がこの地で日本で初めてハムを作った後、日本人が製造方法を学んで、明治20年頃ハム製造を始めました。現在は使われていないようですが、しっかりした

建物で良く保存されています。

舞岡川に出合った先は五太夫橋で、再び国道に出ます。プリジストンの反対側左手に真言宗の「寶藏院」が見えてきます。平安時代に弘法大師が東高野として創設し、その後天文16年(1547年)に中興され、本堂を寶藏院と称し、昭和18年に当地に移転されました。本尊は不動明王で境内には日本舞踊芸道精進の扇塚や地藏堂があり、中には小さなお地藏さまが沢山並んでいます。



ダイエー前を過ぎて右手ファミレスの前に「江戸見附跡」の石碑があります。戸塚宿の江戸側の入り口で、参勤交代の大名らを宿役人がここで迎えました。ここから吉田町、矢部町、戸塚町の三町が宿場町として慶長9年(1604年)に整備されました。

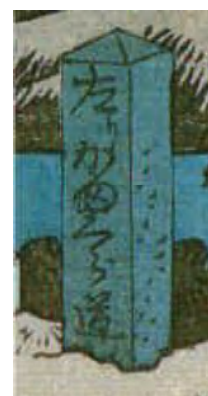
この付近の歩道には駅伝の戸塚のマンホールが迎えてくれます。保土ヶ谷で見たのと同じ絵柄ですが、軒先の提灯が「東海道」から「戸塚」に変えられています。2 区の駅伝ランナーも区間をほぼ走り終えて、3 区の中継所が近づいてあと一踏ん張りのところです。



元町バス停から左手へ住宅街の道を登って行くと「東峯八幡神社」に着きます。段葛を模したと言われる桜並木の長い参道を進み、階段を上ると社殿がありますが、境内には巨大な椎の古木に圧倒されます。源義家が奥州に赴く途中、馬を繋いだと言われ、[白旗の椎]と呼ばれる横浜市指定の名木です。永久 2 年(1114 年)創建で、明和 2 年(1765 年)に現在地に遷座された吉田町の鎮守です。



元町バス停近くには「妙秀寺」があります。境内には広重の浮世絵「戸塚」に描かれた吉田大橋の脇の道標が移設されています。「かまくらみち」と刻まれています。広重の版画では「加満くら道」と描かれています。広重は戸塚宿の別の場所にあった「加満くら道」の道標を吉田大橋の絵に書き換えたようです。



吉田大橋の手前に「木之間稲荷社」の

赤い鳥居と祠があります。江戸中期に伏見稲荷から分祀されて創建された由緒ある稲荷社です。

歌川広重の「東海道五三次之内戸塚」に描かれた大橋に着きました。戸塚駅には巨大なこの絵がありますのでなじみ深い絵です。現在の橋は昭和 61 年に架け替えられたものですが、当時は長さ 10 間(18.2 メー



ト)、幅2間半(4.6メートル)の板橋でした。左に鎌倉道が分かれ、茶屋では米も商っていたようです。橋の欄干には最初に紹介した浮世絵に加えて2枚の戸塚宿の浮世絵の掲示板が掲げられています。戸塚宿を過ぎてからの絵ですので次回詳しく見ることにします。



現在は交通の激しい国道1号線ですが、柏尾川の堤に植えられた桜は毎年見事な花を咲かせてくれます。



かつての「開かずの踏切」から生まれ変わった大橋のトンネルの手前を左に進むと右手に浄土真宗の「善了寺」があります。天福元年(1233年)に開山した寺ですが、現在の本堂は白いモダンな建物です。トンネルの先の左手には「清源寺」があります。徳川家康の側女お万の方(清源院

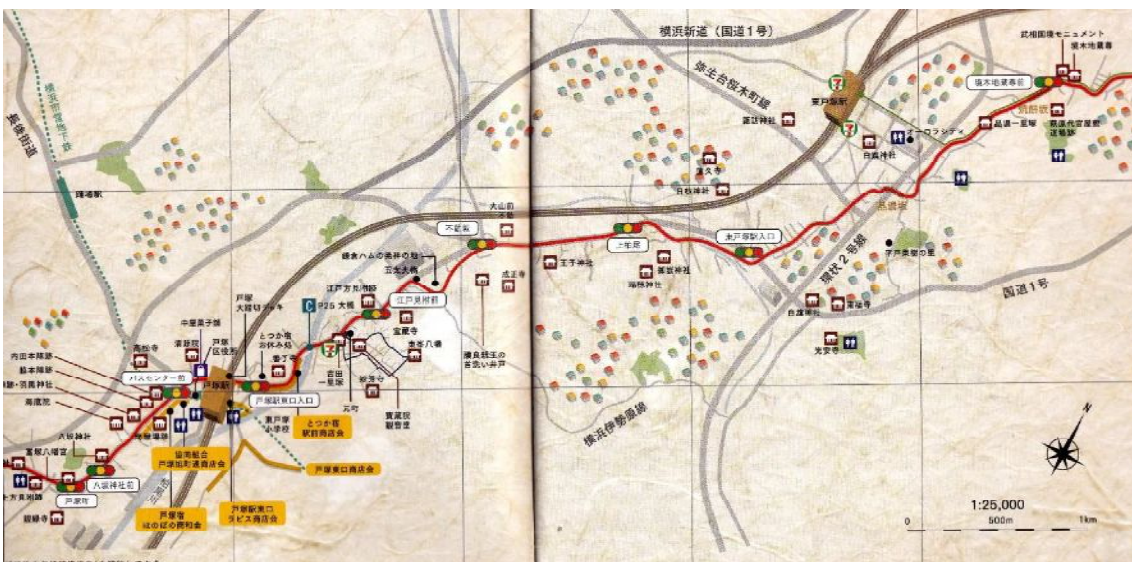
殿)ゆかりの寺ですが、現在改修中です。境内には2つの句碑があります。一つは芭蕉の句「世に人の見つけぬ花や軒の栗」、もう一つ若くして心中した二人を当時の住職が詠んだ「井にうかふ番の果や秋の蝶」です。芭蕉の句よりこちらの方が艶がありますね。



清源寺の前は戸塚駅です。最後に駅構内の広重の浮世絵を見ましょう。タイルでできた床から天井までの巨大な絵ですので、細部まで良く見えます。



途中寄り道をしましたので、7キロくらい歩きましたが、戸塚駅から先には宿場本陣がありますので、そこはまたの機会に譲ります。



以上